

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2019年度) 評価結果報告書

2020年3月13日

社会福祉法人稲城青葉会
城山保育園上石原

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構番号 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1501066	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	城山保育園上石原			
事業所連絡先	〒	182-0035		
	所在地	東京都調布市上石原3-8-10		
	TEL	042-490-2031		
事業所代表者氏名	城所 理恵			
契約日	2019年	10月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2019年	11月	5日	
利用者調査結果報告日	2020年	1月	11日	
自己評価の調査票配布日	2019年	10月	16日	
自己評価結果報告日	2020年	1月	11日	
訪問調査日	2020年	1月	16日	
評価合議日	2020年	1月	16日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回収率向上にも努めた。</p> <p>・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。</p>			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切にし、生きる力を培う保育への実践 ・安心できる子育て支援環境を充実させる ・マニュアルの見直しと人材育成による保育の質の向上 ・定期的なアンケート・調査での利用者のニーズを把握し、満足度を高める ・子ども・保護者・職員・地域で話し合っって子どもの未来を支えていく「共育」を目指す
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門知識を高めることに加えて、個々の人間性を高め、保護者から信頼されるような職員。職員同士、理念を共有し、協力し助け合うことのできる職員。挨拶のできる職員。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士という専門職であるため、常に向上心をもって専門知識を高め、自信をもって仕事に取り組む姿勢を期待している。人としての基本的な行動・態度・倫理観をもち責任をもって仕事に取り組んでほしい。

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯100(在籍児童数128)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ、郵送または郵送・事業所内回収の併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

128
100
100
46
46.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」52.2%・「満足」41.3%の計93.5%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「戸外活動」「食事」など全17問中16問で80%台～100%の高い支持を得ている。自由意見では「先生方が皆優しく明るく、またおむつの廃棄、エプロン・お手拭き等の濡れものを園で用意してくれとても助かっており、季節ごとのイベントも豊富で楽しそうだ」「担任以外の先生も皆ニコニコと声をかけてくれアットホームな雰囲気、異年齢保育の時間も朝夕、ピクニックなど友達がたくさんでき、自然と小さい子には優しく、素敵な年長さんになりたいと思うようになるようだ」「食事がしっかりしており、運動会や発表会は小学校で広々と十分に子どもたちが動け、また絵本を借りられ、芝生の運動場やサーキット・プールなど充実したスペースがある」「自然とのふれ合いが多く、『にこにこレストラン』など毎年試行錯誤して新しいイベントを作ってくれる」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては保護者の就労・負担への配慮のほか、一部保護者のマナーの不徹底に関する事などが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	46	0	0	0
<p>実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者46人全員(100%)が「はい」と答えている。自由意見には「体育指導や造形教室・クッキング等も取り入れており、家庭では教育できないことも指導してもらえていることが、子どもの成長に非常に役立っていると思う」「毎月いろいろなイベントがあり、それを楽しみにしている」「保育園が大好きだ」の3件が寄せられている。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	46	0	0	0
<p>有効回答者46人全員(100%)が「はい」と答えている。自由意見には「毎日、楽しく保育園に行っている」の1件が寄せられている。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	42	3	1	0
<p>「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が6.5%、「いいえ」が2.2%となっている。自由意見は7件で、「子どもたちは給食が大好きで、おやつは見た目も工夫されており、イベント等でも工夫があり大変よい」「イベント食や地域食などが豊富で子どもも楽しんでおり、園では好き嫌いをしない」「個人の状況にも対応してもらっている」などのほか、食事やおやつ提供量などについて、さらなる検討を望む声が見られる。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	44	2	0	0
「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっている。 自由意見は4件で、「近隣施設(消防署・老人ホーム等)や里山の行事もあり、大変よい」「消防署へ連れて行って、行事もすべてのクラスで力が入っており、先生方に感謝している」「外遊びは多い」のほか、戸外活動等の充実や活動内容について、さらなる検討を望む内容が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	36	7	0	3
「はい」が83.7%、「どちらともいえない」が16.3%となっている。 自由意見には「困った時に相談すると、いつも対応してくれる」「電車が動かず1時間以上遅れた時も、親身になって対応してくれた」の2件が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	37	7	2	0
「はい」が80.4%、「どちらともいえない」が15.2%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は5件で、「先日の台風の時などは事前に案内があり、また出入口のセキュリティについては園から毎度話があるなど、意識がとて高く安心できる」のほか、衛生管理や感染症対策、保育中の安全管理などについて、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	41	5	0	0
「はい」が89.1%、「どちらともいえない」が10.9%となっている。 自由意見には「年間予定で事前に知らせてくれるので参加できている」のほか、行事の日程等における各家庭の就労等への配慮や、毎月の予定表配付のタイミングについて、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	39	6	1	0
「はい」が84.8%、「どちらともいえない」が13.0%、「いいえ」が2.2%となっており、昨年度(「はい」74.1%)に比べて改善傾向が見られる。 自由意見は8件で、「こちらが必要とすれば時間を取ってくれる」などのほか、職員の接遇や日頃の子どもの様子などの伝達・報告などについて、さらなる配慮を望む声があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	39	7	0	0
「はい」が84.8%、「どちらともいえない」が15.2%となっている。 自由意見は5件で、「先生方がいつも掃除している姿を見かけ、とてもきれいな施設である」「掃除は徹底されていると思う」「保育室は整理されていてとてもきれいだ」とのほか、各室内の清掃について、さらなる配慮を望む内容が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	38	7	1	0
「はい」が82.6%、「どちらともいえない」が15.2%、「いいえ」が2.2%となっている。 自由意見は3件で、「皆さん挨拶がこやかでしっかりしている」「送り迎え時、顔を合わせればきちんと挨拶してくれる」などのほか、職員の子どもへの接遇について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	38	6	2	0
<p>「はい」が82.6%、「どちらともいえない」が13.0%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は7件で、「保健の先生がとても親身になってくれるので信頼できる」「看護師が素晴らしく、対応が早く頼りになる」「気になったことはすぐに連絡をくれるので、助かっている」のほか、ケガや体調急変等の把握・対応、保護者への連絡・接遇について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	32	7	1	6
<p>「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が17.5%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見は4件で、「必ず先生方が間に入ってきちんと向き合ってくれる」のほか、子ども同士のトラブル等への職員による対応の差、子ども間のトラブル発生時の保護者への情報提供について、さらなる配慮を望む内容が寄せられている。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	40	5	0	1
<p>「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は2件で、「その子その子に合わせた成長を見守り、決して無理をさせない」のほか、子どもの気持ちを大切にされた対応について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	36	6	1	3
<p>「はい」が83.7%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見には行政への要望として、勤務証明書の提出先についての配慮を望む内容が1件寄せられている。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	35	7	3	1
<p>「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が15.6%、「いいえ」が6.7%となっている。 自由意見は4件で、「連絡ノートや直接話す等で、忙しい中でもきちんと返事してくれる」「掲示板やホームページを自分で確認すればわかる」のほか、子どもの成長発達や日頃の生活に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる検討を望む声が見られる。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	31	11	0	4
<p>「はい」が73.8%、「どちらともいえない」が26.2%となっており、「はい」の値には昨年度(56.8%)に比べて顕著な改善が見られている。 自由意見には「話せば、大事なことはきちんと時間を取って聞いてくれる」「不満はなく、お願いをした時などは配慮してもらい、感謝している」の2件が寄せられている。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	25	2	4	15
<p>「はい」が80.6%、「どちらともいえない」が6.5%、「いいえ」が12.9%となっている。 自由意見には「園便りや保護者会で毎年伝えてくれる」の1件が寄せられている。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	保育や園運営において目指すものを職員や保護者に発信し、周知を図っている 子どもたちへの「一人ひとりを大切に生きる力を培う保育」と保護者・地域への「安心できる子育て支援環境」の提供などを掲げる「ミッションステートメント(使命の文書化)」のもと、保育の基本方針や目指す子ども像を掲げる保育目標、職員の行動指針など、保育や運営・経営において法人共通に目指すものを定めている。職員にはこれらを入職時の研修や毎年度配付される手引き「職員のしおり」への記載と説明などにより、保護者に対しては入園時及び毎年度当初の懇談会でのプレゼンテーション投影を活用した説明、園便りなどによって周知を図っている。 経営層が園運営を統括し、活力ある組織づくりと保護者との信頼関係維持に努めている 園長を中心に、経営層が園運営の統括や日々の会議・現場等での指導などにあたっており、各役職の職責は「職員のしおり」や法人共通の「職務基準書」に示されている。働きやすさや職員間の関係性の向上に努め、各人が楽しくやりがいを持って仕事に取り組める職場環境づくりに開園以来注力するとともに、年度途中からリーダー会議を若手も参加できる「みんなの会議」とし、組織内の闊達な意思疎通の促進を図っている。また保護者の多様な価値観・育児観への対応にも引き続き心を砕き、園の方針を積極的に書面等で発信するなど、相互理解に努めている。 案件に応じた組織内の意思決定手順と情報共有や、保護者への周知の仕組みを整えている 各種案件の検討は、「行事」「保育」に主たる話題を分けて行う毎月の職員会議のほか、園長・主任による会議や上記の「みんなの会議」を主な場として、内容や緊急性に応じた話し合いによって行い、それぞれの内容は記録の確認や毎日の朝礼・昼礼、園内グループウェアなどを通じて組織全体に伝えられる。また短時間職員とも「朝夕職員会議」やクラス単位での担任との会議を通じ、意向把握や現場の疑問・悩みの解決を図っている。保護者には主に書面の配付・掲示や玄関のモニター等で、各種決定・変更事項等が伝えられている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>課題把握や改善の参考とすべき保護者や職員の声を、さまざまな方法で把握している</p> <p>毎年度受審する第三者評価実施の際の利用者調査のほか、各種行事や保育参加・給食試食の実施後にもアンケートを実施し、感想や要望などを収集しており、行事後のアンケートは今年度から記名制として、保護者との相互信頼のもとでの意向把握を図っている。またこれらの結果は組織内で共有し、適宜改善に反映させるとともに、園便りを通じて保護者とも概要を共有している。職員の声は前述の各会議や園長との個別の面談・相談などから把握するほか、今年度は職員が会議で話題としたいことなどを随時記入できるホワイトボードを事務室に設置している。</p> <p>事業環境や園の経営状況について、情報収集や状況の把握の仕組みを整えている</p> <p>保育・教育や子育て、福祉などに関する地域内の状況は、見学や後述の各種地域開行事で来園する周辺の未就園世帯の声、調布市の私立園長会での他園との情報交換のほか、市内・地域内で複数設けられる関係者会議を通じて把握している。また関連の行政の制度・政策や業界の動向は、市の園長会や行政の各種通達、関係団体の研修会や発信物などから情報を収集している。園の予算の作成・執行や年間・月次の収支、定員充足等の経営状況の管理は、業務委託する会計事務所の支援のもとで園長が行い、法人と随時状況を共有している。</p> <p>課題解決に関する3か年の計画や年度の事業計画が現場に発信され、推進が図られている</p> <p>今年度までの3か年の「戦略的取り組み課題」に関する計画に、「子ども」「地域」など職員参画の各チームの活動を主な柱とした各分野の取組と進捗の目安を定め、毎年度の「職員のしおり」への記載と説明などによって組織内で共有している。各チームの活動の状況は職員会議で適宜報告され、年度末に園長がそれらの成果・反省をもとに計画の見直しを行っている。また年度の事業計画には同計画の各分野に関する年度の取組のほか、前年度の第三者評価結果を踏まえた重点項目が記載され、同様に職員のしおりへの記載などによって職員に発信されている。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
<p>職員が保育・福祉従事者としての自覚と責任を理解し、実践できるよう啓発を行っている</p> <p>「職員のしおり」に法人職員に求める自覚として、子どもの人権の尊重や保護者・地域への説明責任、守秘義務の徹底などを定め、これを毎年度当初に確認することで保育・福祉従事者としての社会的責任の遂行の徹底を促している。また各人の自己評価や人事考課で用いられる等級別の「職務基準書」にも社会人・保育者としての各種規範が項目として設けられ、毎年度の再認識の機会となっているほか、子どもに対する種々の虐待的言動の排除を定めた「保育士の対応基準チェックシート」を4月・9月の職員会議で輪読するなど、組織の倫理観向上に努めている。</p> <p>利用者保護の仕組みとして、保護者の苦情や子どもの虐待への対応体制を整えている</p> <p>苦情解決制度について、入園時と毎年度当初の懇談会での説明によって保護者に周知を図り、日々の会話・連絡帳や個別の面談、玄関の「ご意見箱」など、多様な方法による要望・苦情等の把握にも努めている。寄せられた保護者の声には案件に応じた最善の対応に努め、内容により園便りや園内掲示、ホームページへの掲載によって保護者全体にも伝え、透明性向上や共通理解形成にも活かしている。虐待発見時の通報・連携先を定め、早期発見や発見後の対応をマニュアルに示すとともに、必要がある場合には組織内で情報を共有し、継続的な支援を行っている。</p> <p>地域に開かれた子育ての拠点として、透明性向上や積極的な貢献に取り組んでいる</p> <p>地域に開かれた園として、保育・看護の実習生や市内複数の中学校からの職場体験生などを積極的に受け入れ、ホームページや子育て支援情報紙「らすく」、園・地域の掲示板や公民館・児童館での広報・情報発信も行っている。また平日午前中の園庭開放、園庭で大型遊具での遊びや紙芝居・お遊戯などを楽しむ「お外で遊ぼう会」、給食体験「キッズランチ」や子育て講座開催、市の「保育フェスティバル」出展など、地域向けの機能還元にも努めるほか、地域の児童館や小学校を拠点とした複数の関係者会議を通じ、情報交換や共通課題の検討にも加わっている。</p>		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>ケガ・事故等の防止に向けた事例の共有・検討や、散歩時の安全確保に取り組んでいる</p> <p>子どものケガやヒヤリハットは、直後の朝礼・昼礼や園内グループウェアでの通達により、組織内で共有と注意喚起を行っている。また案件により会議でも報告されるほか、複数の観点で原因・対策検討を行う「SHELL分析」を実施し、再発防止やソフト・ハード両面の改善に活かしており、事例の随時の共有と活発な分析の実施の両立を課題としている。夏季には環境省の「暑さ指数」に基づく散歩・プール活動等の制限を行い、熱中症予防に努め、今年度は散歩時の安全確保の徹底を目的に、周辺の危険箇所の確認や行政への要整備箇所の報告を行っている。</p> <p>SIDSや災害・侵入などへの対策や、経営面の各種課題への対応にも努めている</p> <p>心肺蘇生訓練実施や子どもの睡眠時の呼吸・体勢等の確認、水害を含むさまざまな状況を想定した毎月の防災訓練とBCPの作成・更新、毎年度の不審者対応訓練など、SIDSや災害・侵入への対策にも取り組んでいる。また各室には感染症・ケガ等への対応を示すカード形態のマニュアルを常備し、散歩時に職員が携行するなどして活動中の危険に備えている。業界全体の人材採用の困難化、若年層を中心とする人材育成体制の強化による組織的なスキルアップ、それらに対する財政上の手当てなど、経営面の諸課題への対応にも法人と連携して取り組んでいる。</p> <p>情報の適正な管理・利用のための環境や各種規定、職員教育の仕組みなどを整備している</p> <p>重要書類や各種端末類は事務室内の収納庫で施錠管理し、情報漏洩の防止に努めるほか、法人の各種関係規程に個人情報の取り扱い全般が定められている。また就業規則や前述の「職員のしおり」、入職1～3年目職員向けの指導教材「OJTチェックリスト」にも守秘義務の厳守が明記され、全職員から入職時に誓約書を取得するとともに、実習生等には活動前に注意喚起を行っている。プライバシーポリシーには個人情報の利用目的や開示・訂正・利用停止請求への対応、子どもの肖像の利用に関する方針などが示され、保護者にはこれを入園時に説明している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3
組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー5の講評			
<p>人材の確保と活用に取り組む、働きやすい職場づくりにも努めている</p> <p>法人を中心に系列各園が協力し、各種就職フェア・関連業者の活用、養成校への働きかけや園単位での短時間職員の確保など、多様な方法で必要な人材の確保に努めている。配属・異動は法人の園長・主任会議にて各園の状況や各人の意向・経験等を踏まえて決定され、園内での配置は担任継続による支援の継続性の保障のほか、各職員の希望と望まれる成長、各クラスの状況などを決定される。東京都が推進する「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言」に法人全体で登録しており、当園でも課題とする業務の効率化をはじめ、労働環境の諸整備に取り組んでいる。</p> <p>キャリアパスと個別の育成のための諸制度を整備し、各人の成長を支援している</p> <p>法人策定のキャリアパスに、職員として求められる役割・姿勢や知識・技術、必要な研鑽と任用や賃金の基準が等級別に示され、職員に配付・説明されている。また各等級で求める保育所職員としての実務的な理解・技術を定めた「職務基準書」に基づく査定表をもとに、自己評価・上司評価による人事考課を実施するほか、「自己申告書」によって各人の仕事や処遇に関する意向、年度の目標や前年度の反省・振り返りなどを把握している。これらの過程では園長・主任との面談が定期的に持たれ、各職員との課題・目標やさまざまな要望等の共有がなされている。</p> <p>各種の研鑽機会や会議を活用して、組織としての学びの充実を図っている</p> <p>上記の個別の評価・目標管理の仕組みを通じ、各人の等級に応じて経営層が後輩・新人育成等に関する指導・助言を行うほか、前述の「OJTチェックリスト」を用いた新人・若手職員への指導、「メンター制度」による先輩・後輩間の個別支援など、人材育成のための諸制度が整備されている。また法人全体研修でのリーダーシップに関する研鑽、子どもの発達その他の各分野の専門研修への派遣など、各職員の能力向上を促すほか、会議での報告などによる成果の共有を図り、「みんなの会議」をはじめとするさまざまな話し合いを通じた課題解決もなされている。</p>			

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度の事業計画中の重点項目の一つとして、園としての方針・考え方について、職員間・対保護者それぞれに認識共有を図ることを挙げた。保護者の価値観や育児観が多様化する中で、園の理念・方針や子ども・保護者全体の福祉の増進に必ずしもそぐわない個別の要望が寄せられることがしばしばあり、その対応にかねてより心を砕いているが、同時にそれは現場や経営層の負担ともなり、看過できない経営課題となっている。また組織内でも短時間職員をはじめとする職員間での理念・方針等の浸透に改めて取り組み、各業務の実施や子ども・保護者との関わりにおける共通認識を深める必要性が認識されていた。</p> <p>保護者には年度初めの懇談会に全体会を設け、プレゼンテーション投影も活用しながら、園・法人としての理念や基本方針を説明し、理解獲得を図るとともに、毎月の園便りをはじめとする発信媒体を活用し、園の考え方をそのつど伝えた。また職員には年度開始時の「職員のしおり」の配付・説明のほか、短時間職員には毎月の「朝夕職員会議」やクラス単位での担任との話し合いを通じ、日々の執務における困りごと・疑問や子どもへの対応などについて、意思疎通と認識・情報の共有を密に図るよう努めた。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>保護者に対しては上記のほか、特にクレーム対応にあたっては相手の意向を受け入れたうえで、園としてできること・できないことを伝え、共通理解を得られるようにするとともに、可能な方策をなるべく複数示すなど、柔軟な対応に努めた。職員間でも上記の取組などを通じ、保護者対応においても統一的な働きかけの徹底を図ることで、概ね良好な関係性を維持できていると考えている。一方で一部保護者の共通ルールの遵守について保護者から意見があり、市や第三者委員との相談を重ねるなどして解決に努めるとともに、かねて近隣からも苦情が寄せられていた駐車場の利用については、法人内で検討のうえ、確保していた駐車場を解約するなど、課題も残った。産前産後や育児休暇中の子どもの預かりや土曜保育の利用、臨時駐車場の使用など、ルール・マナーの理解と遵守については引き続き保護者全体への発信と共通理解形成の必要性が認識されている。</p> <p>今年度も対保護者・組織内とも取組を継続するとともに、組織内では年度途中からリーダー会議を「みんなの会議」に改め、若手を含め多くの職員が話し合い、多様な観点で日常の種々の課題の解決を図るようになっている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

保育の計画類については、法人全体でソフトウェアの導入による電子化を図っており、そのより効果的な運用が課題となっていた。また昨年度は保育所保育指針の改定への対応も図る必要があり、法人内の主任会で継続的な検討を行った。書式の見直しや全体的な計画・年間指導計画などのテンプレート策定など、法人・園として目指す保育を改定保育指針も踏まえつつ実践することと職員の作業負担軽減を両立させることを目指し、取組を進めた。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

書式類の電子化により、同一内容の重複記入、長期・短期の各計画間の整合や週・月の連続性など、それまで課題とされていた計画立案や作成作業上の課題の解消が図られつつある。またこれと併せ、昨年度から連絡帳を複写式の様式に変更したことで、日々の記入の履歴を確実に管理でき、関係職員間でより確実な情報共有を行えるようになるのと同時に、記入後の複写を個別の保育日誌として兼用することで、事務負担の軽減にもつなげられている。これらに関しては職員自己評価でも肯定的な声が上がられている。今年度は事業計画中の重点項目に全体的な計画の策定・見直しと各計画類への展開を挙げ、業務の効率化をさらに進めつつ職員間の共通理解を深めることを目指し、検討に取り組んでいる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学が要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>見学では保育の特徴や園舎のコンセプトなどを伝えている</p> <p>利用希望者対象の見学会を開催しており、利用希望者の利便性の向上を踏まえて、複数日設けている。見学では、園舎のコンセプトや法人の「ミッションステートメント(使命の文章化)」を紹介したパンフレットを渡すほか、園舎を案内し、園の保育の方針や環境の工夫などを説明している。保育の特徴として、外に出て身体を動かして遊ぶこと、外部講師を招いて行う体操教室や造形活動、年長児になると法人が所有する近隣市の里山に出かけていることについても伝えている。また年間行事や保育参加の内容、給食の外部委託の利用についても説明している。</p> <p>見学では、入園後に必要となる具体的な留意点についても伝えている</p> <p>上記に加え、今年度の説明からは、園の保育の特徴や理念などのアピールポイントだけでなく、園利用に関する具体的な留意点についてもわかりやすく説明することに力を入れており、車の利用ができないということや延長保育の内容、体調不良時の園利用に関する園の決まりなど、入園後によく寄せられる質問に対する園の方針を伝えるようにしている。見学対応は、園長・主任保育士が行っており、個別の相談ごとや特に配慮を必要とする場合などには、専門職も対応するようにしている。希望者には園便りを配付している。</p> <p>園や市のホームページでの情報掲載や配付物の発行など園情報の発信に努めている</p> <p>ホームページでは園の概要のほか、保育目標・年間行事・保護者が準備するもののリストと写真、「入園のしおり」が見られるようになっており、玄関モニターでの表示と連動し、日々の子どもの活動の様子が更新されている。また市ホームページには園の所在地・定員・受け入れ年齢などが掲載され、園ホームページへのリンクも設定されている。地域子育て支援事業では、イベントだけではなく相談に応じることもあり、園の専門性を活かし、方針を伝え、魅力を発信する機会となっている。園便りは毎月市役所・小学校・西部公民館に持って行っている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園説明会を行い、園の方針や決まりごとを伝えている</p> <p>入園説明会では「入園のしおり」に沿って、保育で大切にしていること・年間の行事・登園の流れなどを、スライドを用いて説明しており、終了後に健診を行って健康面を確認している。すでにきょうだいが入園している場合には、個別面談時にしおりを再確認するようにするなど、保護者負担に配慮している。また個別の面談を行い、保護者記入の発達や健康に関する書類を確認しながら、さらに詳細な情報を確認・記録している。食物アレルギーへの対応や離乳食についての確認など、必要に応じて専門職も同席して、援助方針を確認することとしている。</p> <p>入園時には子どもと家庭の情報を把握確認し、職員間で共有している</p> <p>入園時には、各種書類の提出を依頼している。「児童票」「健康状況調査表」「保育時間届」によって、発達状況のほか、既往症・予防接種の状況等保健面の情報についても把握している。これらのうち、わかりにくいものについては、記入例もつけている。個人面談では面接チェック表を用いて確認漏れを防ぎつつ必要な情報を把握し、それらを新担任会議や職員会議で共有するとともに、保護者に再確認が必要な事項を職員間で検討・共有している。これらの過程では情報に目を通すだけでなく、関係職員間で具体的に話し合い、確認するようにしている。</p> <p>入園直後の負担の軽減に取り組むとともに、卒園後の関係の継続に努めている</p> <p>子どもや保護者の事情によっておよそ2週間を目安に、徐々に園での滞在時間を延ばす「慣れ保育」を行っており、新入園児が経験を増やしながら職員や園内の環境に徐々になじめるようにしている。また毎日の降園時には保護者が安心できるよう、できるようになったことなどを伝えるようにするほか、0歳児については最初の食事の時に、保護者が食べさせる様子を職員が確認するようにしている。利用終了後は卒園した小学3年生までを対象として運動会・夏祭りなどの行事に招待するほか、1年生の元担任や園長が入学式に参列するようにしている。</p>			

サブカテゴリー3		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p> 保育指針を踏まえた全体的な計画をもとに、子どもの成長に即した各計画を作成している 保育所保育指針を柱に、全体的な計画及び年齢別保育目標を作成している。毎月1回のカリキュラム会議で振り返りと見直しを行い、次の計画につなげるとともに、3歳未満児には個別計画を立て、3歳以上児については必要に応じて個別計画を作成している。保護者との連絡帳や送迎時の日常会話・個別面談で得た情報を踏まえ、子どもの状況を反映できるように配慮して計画を立てている。一日の様子は保育日誌に実践内容や個別記録を詳細に記載して日々の状況を管理し、児童票その他の各様式に発達経過のチェックや成長の推移を記録している。 </p> <p> 園と保護者との連携を深め、保育に必要な情報を得ている 入園時面談で子どもや家庭の状況を把握し、入園後の配慮につなげている。「入園のしおり」に年齢別の保育目標や全体的な計画を記載し、保護者に周知させるとともに、月の保育目標を園便りに掲載し、幼児の週案は玄関モニターに掲示して成長の見通しとねらいを知らせている。また保護者の保育参加ではクラスでの活動後面談を行い、相互理解につなげている。また日々の送迎時の会話や連絡帳の交換から保護者の意向を日々把握し、連絡帳は複写式となったことで、現場と経営層との共有認識がしやすくなるという効果も生まれている。 </p> <p> 子どもの状況を職員間で共有する仕組みが整えられている 保護者からの伝達は「お迎え伝達表」に記載している。日々朝礼・昼礼を行い、体調不良やケガの伝達、その翌日の体調把握等について共有を図るとともに、各家庭の状況の変化やトラブルになりそうな状況なども日常的に共有し合うことができるようにしている。子ども及びクラス状況・計画の内容等は、職員会議や「朝夕職員会議」で報告・確認して共有を図るとともに、園内グループウェアや新しく導入された園児の管理システムを活用し、子どもの発達・情報の共有・職員連携などに役立てるべく、組織全体での情報の把握と確認に努めている。 </p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報の取り扱いや子どもの羞恥心・プライバシーに配慮している</p> <p>入園時の重要事項説明の際に、個人情報の利用目的や保護者の同意を得ずに情報を第三者に提供しないことなどを保護者に伝え、医療機関や外部機関と子どもの情報をやり取りする場合には、事前に話し合いを持ち、保護者の承諾を得ている。プール遊びやシャワーでは周囲からの視線を遮る環境設定をするとともに、子どもたちには裸にならずに着替えるよう指導している。乳児のおむつ替えは場所を決め、見えない配慮をするほか、各年齢で子どもが恥ずかしいと感じそうな場面では、場所を変えたり小声で話したりなど、精神面に配慮した対応をしている。</p> <p>子ども一人ひとりの特性や成長に応じた援助に取り組んでいる</p> <p>特別に配慮が必要な子どもに対して、その子の特性や成長・情緒の安定などに必要な環境や大人の関わり方について、職員間で子どもや家庭の情報を共有し、話し合いを行うほか、家庭とも連携を図りながら適切な援助につなげられるよう取り組んでいる。また、必要に応じて市の職員による巡回相談や法人が契約している臨床心理士など専門家の助言を受けて、個別の指導計画を作成するほか、短時間職員からも把握している地域のさまざまな情報の提供を受けるなど、多様な視点で子どもの成長や子どもを取り巻く環境を把握し援助につなげている。</p> <p>保護者の意向の尊重に努めるほか、虐待防止の仕組みを整えている</p> <p>保護者との日々の対話や面談を通じた意向把握のほか、職員がそれぞれの保護者の小さな変化に気づき対応できるよう心がけることで、価値観の尊重や家庭内の状況等の把握に努めている。対応に際しても可能な選択肢をなるべく多様に示すとともに、保育所としてできることも伝え、共通理解を得ようとしている。虐待対応のマニュアルを整え、発見から通報までの手順を明らかにするほか、各職員が年2回、チェックシートを用いて言動や関わり方を確認し、過年度には育児困難家庭の支援などに関する研修に職員が参加し、その学びを組織内で共有している。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>園業務の標準を示すマニュアルを用意し、必要に応じて確認ができるようになっている</p> <p>マニュアル集には、園の理念・使命・目標のほか、役割分担表・保育職務基準表・年齢別に定めたデイリープログラム・当番保育のやることリスト・土曜日業務の流れ・給食の流れ・保育カリキュラム・行事・安全衛生管理・子ども権利擁護・人材育成・不審者対策・見学者に対する相談業務など、園業務の標準が示されている。その他震災時対応マニュアルなど、緊急時に必要なマニュアルも整えられている。これらのマニュアルは事務室に常置されており、必要な時にいつでも確認できる状態となっており、各マニュアルの再編纂を今後の課題と考えている。</p> <p>業務の標準化に向け非常勤職員用のマニュアルを作成するほか、OJTも実施されている</p> <p>上記に加えて、短時間職員の職務内容の明確化にも取り組んでおり、さまざまなクラスのサポートに入る実態を踏まえて、短時間職員が日々行っている仕事内容を正規職員が聴き取り、年齢ごとのマニュアルを作成している。またこれらは短時間職員が使いやすいよう、マニュアル集の冒頭に綴られている。実際の業務にばらつきが起こらないように、職員の配置は経験を踏まえて行っており、日々の活動の中でOJTを行うこととなつてほか、入職3年目までの職員にはメンター(指導役の先輩職員)をつけることで、気軽に相談できるようしている。</p> <p>園業務の最適化に向けた活動が、チーム活動を中心に進められている</p> <p>園内の諸業務の見直しや改善は、各職員が気づいた時に職員会議などの話し合いの場で報告し行われるほか、チーム活動によっても進められている。チームは子ども(2チーム)・地域・職員・危機管理・スキルアップの6チームがある。テーマの設定や進捗管理など、活動の進め方はチームに委ねられており、職員の主体性が尊重されている。正規職員は必ずどこかのチームに参加することになっており、職員の自発的な活動への参加が園全体の改善につながられている。今年度はスキルアップチームが、円滑な会議の進め方や資料の作り方の改善に取り組んでいる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの状況を把握し職員間で話し合い、子どもの主体的な行動や活動を支援している</p> <p>連絡帳や会話、個人面談などで保護者から得た情報や、保育日誌の内容から子どもの全体的な姿を把握している。これらの情報は会議や朝昼礼などで職員間の共有を図り、発達を支援する保育の展開に活かしている。毎日登園時に子どもの健康状態や家庭での状況を保護者に確認し、その日の保育活動に反映している。子どもたちの主体的な活動として、3歳以上児を対象に当番活動を実施し、配膳の手伝いや朝夕の会の司会を行う中で、役割を果たしながら自主性や責任感も育めるようにしている。</p> <p>配慮が必要な子の支援や子ども同士のトラブルへの対応に配慮している</p> <p>配慮が必要な子への対応は、子ども発達支援センターや保護者とも連携し、職員間で共有している。各クラス1～2名の補助職員を配置し、該当児の様子に応じて集団や個別で対応し、活動を楽しめるようにしている。子ども同士のトラブルの際は年齢なりの対応を心がけ、子ども同士意見交換をする中で、関わる職員が気持ちの折り合いがつけられるよう援助している。またケガ等の発生時には事故報告書やアクシデント報告を記入し、いろいろな角度から大人側の配慮を振り返る「SHELL分析」も行い、子どもを尊重した関わりができるようにしている。</p> <p>5歳児の活動の充実を図るとともに、就学に向けて小学校や家庭との連携にも努めている</p> <p>5歳児は里山遊びやグループ園の5歳児交流会・近隣の施設訪問・デイキャンプなど、園外に出かけてゆく機会が活発に持たれている。散歩で小学校の近くを通ったり、幼保小学校交流会などに参加したりし、就学への期待を高めている。就学先の学校や学童保育とも連携を図り、子どもの情報共有を行っている。クラス便りで「めざせ！ いちねんせい！」のコーナーを設け、就学に向けて必要な取組を継続的に保護者に紹介している。懇談会の前に、調布市健康推進課による「準備はいい？ もうすぐ1年生」の講座を親子で聴く機会を設けている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>保護者とのコミュニケーションを大切に、子どもの様子の周知に努めている 登園時・降園時とも職員が保護者と口頭で丁寧にやりとりしている。当番の伝達には「お迎え伝達表」を活用し、連絡漏れのないようにしている。特に前日に欠席したなど変わった様子のあった子どもについては、朝礼・昼礼や園内グループウェアからも情報を得て、体調確認を行っている。0～2歳児は連絡帳にて子どもの様子・食事・睡眠・体調などについて家庭と共有し、活動中の写真を載せた「ドキュメンテーション」の掲示も行っている。3歳以上児は活動の様子を玄関モニターとホームページに掲載し、親子で会話を楽しくきっかけ作りも担っている。</p> <p>家庭と連携を図り、子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう援助している 各クラスとも年間指導計画に基づき、基本的な生活習慣が身につくように取り組んでいる。個々の発達に応じて子どもができることを行うことで、生活を楽しみながら、基本的なことが身につくように支援している。クラス便りに子どもが着脱に取り組んでいる場面の写真を載せたり、履きやすい靴や靴下について情報提供を行うなど、園での取組や家庭でできる工夫を保護者に知らせている。懇談会や保育参加・面談を通じて、園や家庭での状況を共有し合い、同じ方向性を持って関わるように努めている。</p> <p>睡眠・休息は、子どもの発達や状況に応じて取れるよう配慮している 一人ひとりのその日の体調や、家庭環境に合わせた睡眠のリズムに応じて休息が取れるようにしている。受け入れ時には健康観察を十分に行い、体温が高めなどの普段と違う様子がある時には、園長・看護師とも連絡を取り合い対応している。年長児は就学に向けて、1月から段階的に午睡を減らし、2月からは睡眠を取らずに活動する習慣をつけている。睡眠中は0歳児は5分、1・2歳児は10分おきに体位や睡眠状況などを確認し、午睡チェック表に記載するとともに、顔色がわかるよう採光にも留意するなど、乳児突然死症候群の予防に努めている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが主体的に生活・活動できるよう、さまざまな配慮をしている</p> <p>3歳児までは二つに分かれて使用できる保育室を活用し、遊びの設定を考え、一人ひとりが遊び込むことのできる環境設定を行っている。パーティションを利用してコーナー設定をし、時差をつける工夫も行いながら、少人数で取り組めるよう工夫をしている。また行事や日々の活動においても準備段階から子どもの気持ちを高め、興味が持てるように配慮するほか、3歳以上児は当番活動において自分たちで生活を展開する経験をするなど、ねらいや計画を重視しつつ、活動に対する子どもたちのやる気や希望も大切に考えて対応している。</p> <p>言葉で表現することの大切さや、決まりの大切さに気づくような配慮をしている</p> <p>0～2歳児では子どもの思いに共感したり代弁したりして、言葉で伝えられるよう援助をしている。安心して話せる環境づくりを行い、職員は聴き手・話し手の見本となり、表現を広げられるよう配慮している。決まりについては、「ルールとは何か」「守らないとどうなるか」を子どもたちが考える機会を設けるとともに、待つ場所に足形を置く、トイレの扉にノックを促す貼り紙をするなど、子どもが見てわかるような配慮をしている。特に危険につながることは、種々の教材や体験から身の回りの危険を学ぶ「危険学」の取組で知らせている。</p> <p>身近な自然や表現活動・運動遊びを通して、心身の健康、感性の豊かさを育んでいる</p> <p>周辺の豊かな自然環境を活かし、クラスや異年齢で散歩に行く機会を日常的に採り入れている。遊具がある公園・ドングリが拾える公園など目的に合わせて場所を選び、身体を動かし自然に触れている。また、専任講師による活動も採り入れており、造形指導は月1回4・5歳児を対象に、やりたい気持ちや自分らしい表現を大切に、それぞれの子どもが楽しく表現することを重視した活動とし、体育指導は3歳以上児を対象に月2回、走る・跳ぶなどの基本動作を運動遊びとして楽しむことを目的に取り組み、運動会の演目の中で活動の成果を披露している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちはさまざまな行事に参加し、楽しい体験をしている</p> <p>夏祭りや運動会・発表会では、演目や役の決定に子どもたちの意見を採り入れており、子どもたちが自身の衣装や小道具作りにも関わるなど、行事に対してより興味・関心を持てるように工夫している。また餅つき・節分・雛祭りなどの伝承行事を行い、日本の文化を知る機会を設けるほか、ピクニック・芋掘り・大根掘り・バス遠足など、自然や農作物に触れる体験は、子どもたちの生活に楽しいアクセントを加えている。職員は各行事ごとにねらい・目的を確認し共通意識を持って進め、子どもたちの成長につながるような配慮をしている。</p> <p>5歳児が行事での経験を通して、成長を実感できるよう配慮している</p> <p>5歳児は子どもたちが試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや、共通の目的に向かい達成感を味わうことができるような立場で行事に参加している。デイキャンプでは子どもたちが企画から参加し、テーマを決め調べながらアイデアを出し合い、活動につなげている。運動会では進行の手伝いも担いつつ、板登りでは頑張って登り切る達成感、組体操では皆で協力することの大切さを実感し、年長児として成長の糧としている。「お別れ会」では好きな服を着て皆の憧れとしてランウェイを歩き、卒園式では緊張感を持ちながら祝福されるうれしさを味わっている。</p> <p>子どもの姿を丁寧に伝えながら、行事を通じて保護者と子どもの成長を共有している</p> <p>保護者参加の行事は年度初めに年間行事予定表を配付し、入園説明会でも説明している。園便りや臨時便り・プログラムなどを配付し、ねらいや子どもたちの取組の様子を文章や写真で知らせ、保護者の理解を得られるようにしている。行事後にアンケートや連絡帳で得た保護者からの意見を次年度に活かしている。夏祭りでは職員と保護者が一緒に太鼓を披露することが恒例になり、交流も深めている。保育参加は都合のつく日に申し込みが可能で、実際にクラスで活動をともにした後に面談を行い、子どもの相互理解を図っている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもたちが安心し、落ち着いて過ごせる環境を作っている</p> <p>長時間保育の中で安心して過ごせるように、カーペットやベンチなどを設置したり、ゆっくりと絵本を楽しむコーナーも設定したりしている。保育者は個別の関わりやスキンシップを大事にし、不安や寂しさを感じさせない配慮をしている。当番保育では乳児・幼児で分かれて過ごせるよう、2部屋を利用し環境設定しているが、状況により行き来するなど柔軟に対応している。日頃から積極的に異年齢交流を行うことで、当番保育でも異年齢と一緒に遊んだりお世話したりする姿が見られ、保育者は安全に配慮しながら楽しく遊べるように仲立ちをしている。</p> <p>子どもたちの様子の丁寧な伝達に努め、保護者も安心できるよう配慮している</p> <p>遅番や早番の職員は、把握した子どもの様子や家庭からの連絡などを「お迎え伝達表」に記入し、伝達漏れのないようにしている。また、クラスでも情報の把握に努め、日中の保育に反映させている。保護者への伝達は口頭での連絡のほか、連絡帳・玄関モニターでも行い、ケガや普段と変わった様子があった時は、その場の状況を説明できる職員がなるべく対応するようにし、場合によっては3歳以上児も連絡帳に記載している。短時間職員とも「朝夕職員会議」などを通じて情報共有と把握に努め、常勤職員とも変わりなく保育できるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが食事を楽しみ味わう工夫や、食事内容についての丁寧な配慮に努めている</p> <p>給食は業務委託による自園調理にて提供している。委託業者の管理栄養士が献立を立案し、新鮮な旬の食材を使い、だしを効かせて素材の味を活かし、薄味に仕上げ子どもたちの味覚の発達につなげている。日々の喫食状況については、給食担当者が巡回したり、下膳の際に子どもの食べ具合や様子をクラスから伝えたりして連携をとり、栄養士が職員会議・離乳食会議にも出席し、現場との共通認識のもとで給食を提供できるようにしている。また誕生日や行事ではテーブルクロスを敷いたり、お花を飾ったりして楽しく食べられる工夫をしている。</p> <p>アレルギー対応や行事にちなんだ楽しい特別メニューの提供なども行っている</p> <p>「調布市アレルギー対応マニュアル」に基づき、完全除去による代替食の給食を提供している。提供にあたっては保護者面談を行い、医師による「アレルギー疾患生活管理指導表」の内容を踏まえ、園が作成した「食物アレルギー児個別対応確認書」に同意を得て対応を確定させている。提供時は専用のトレーを使用し、園のマニュアルに従い誤食防止に努めている。また、行事食では盛り付けにも工夫を凝らして子どもたちを楽しませ、郷土食の「日本のご飯」では食を通して日本の文化を知らせている。</p> <p>子どもが食への関心を深められるようなさまざまな取組を行っている</p> <p>幼児はランチルームで食事を摂り、準備から片づけまでを生活の一部として子どもたちが行っており、食事の前には5歳児が献立を放送で説明し、みんなの食事への期待感を高めるとともに、役割を果たす楽しさを感じている。また給食の約束標語を作りわかりやすく伝える工夫のほか、子どもたちがよりマナーを意識するようにと「にこにこレストラン」の取組を始め、子どもたちがアイディアを出し合い、独自の食育活動へと発展している。園内でのピーマン・ナス等の栽培・収穫、地域の畑での芋掘りの体験などのほか、年間計画のもとで調理活動も行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>歯磨きや手洗い指導のほか、避難訓練時には身を守ることの大切さが伝えられている</p> <p>子どもに対する保健指導は、市の歯科衛生士による歯科指導が年2回行われている。歩行が安定した頃から開始し、清潔になることの気持ちよさを共有しながら、手洗い指導を始めている。一人できるようになってからは、保育士や看護師が声かけや問いかけを行ったり、洗い方のイラストを掲示したりして、習慣を身につけられるよう、日常的な援助や指導に取り組んでいる。また、毎月の避難訓練や戸外活動の際には、自分の身を守ることの大切さや身の回りや周辺環境の危険について伝えるようにしている。</p> <p>保健指導が視覚的な工夫のもと行われ、看護師による職員研修も実施されている</p> <p>手洗いの仕方が収録されたDVDコンテンツを使ったり、プールの前にトイレに行くことの大切さや、危険な行為とその後に起こるケガの様子を職員が模擬で写真に収めたスライド資料を使うなど、健康の大切さを視覚的に伝えている。毎月の職員会議ではその月に発生しやすい事故に関する確認や対策を話し合うほか、事故報告書やヒヤリハット事例を活用して改善につなげるなど、事故やケガの防止に努めている。また看護師による嘔吐処理等の衛生管理に関するレクチャーが、常勤正職員だけでなく、短時間勤務の職員に対しても実施されている。</p> <p>医師から協力を得るとともに、職員間の連携を図って子どもの健康管理に努めている</p> <p>嘱託医との連携体勢が整えられており、2歳児までは毎月、3歳以上児は年2回の健康診断が行われている。健診時には情報提供だけでなく、健康や発達に関する相談にも応じてもらうほか、他の医療機関への紹介にも対応してもらっている。看護師は1日最低2回は園内をラウンドし、遊びや食事の様子を見るようにしている。休み明けの子どもや、前日にケガをしている子ども、保護者から気になるなどの報告を受けている子どもなど、ケアの必要がある場合については頻回に状況を確認し、体調の急変に備えている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>それぞれの家庭・保護者の事情に応じた対応や配慮に努めている 保護者の残業等による就業時間の変更や、健康上の理由などによる急な利用時間や利用日の変更には、できる限り柔軟に対応しており、保護者から連絡を受けた際には、安心できるように、保護者をねぎらう言葉を添えるよう心がけている。また保護者や家庭の事情から、保育サービスの利用が望ましい場合や配慮が必要な場合にも、職員会議や朝礼・昼礼を通じて情報を把握することで、安心できるような声かけや配慮などの個別対応ができるようにしている。行事にも参加しやすいよう年間行事予定を前年度末に配付するほか、園便りにも日程を掲載している。</p> <p>保護者同士が交流を持ち、親睦を深められるような機会をさまざまに設けている 保護者同士が交流を持ち、親睦を深められるような機会をさまざまに設けている。入園時の「慣れ保育」の期間は、登降園の時間帯が同じになることが多く、保護者同士が会話を交わす機会となっている。その他懇談会は、自己紹介やゲーム・グループトークなどを通じて、楽しみながらお互いを知る機会となっており、今年度、年長児の懇談会では、入学する学校別のグループに分かれて、就学に向けての悩みや関心事を話し合っている。また1階の絵本コーナーは、降園時に保護者同士が会話を楽しむことができる空間となっている。</p> <p>ポートフォリオの掲示など、保護者との共通認識を深められるように努めている 保護者の変化に気づき対応できるよう心がけており、担任だけでなく、過年度の担任やきょうだい関係など、保護者との関わり持ったことのある職員が保護者に関わることで、不安や悩み、要望や意見を聴き取ることができるよう努めている。日々の対話や連絡帳でのやり取りのほか、保育参観とその後の個人面談など、子どもの育ちを互いに確認しながら保護者との共通認識を深められるようにしており、今年度から「ポートフォリオ」の作成・掲示にも注力し、職員が把握した子どもの育ちを、写真にコメントを付して視覚的に伝えている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を設けている</p> <p>年長児が近隣の高齢者施設に出かけており、歌を歌ったり、伝承遊びを楽しんだりしているほか、消防署に見学に出かけたり、市が主催する観劇会に4・5歳児が参加したりしている。また今年度は、近隣駅で行われている警察による交通安全イベントに出かけ、騎馬隊の様子を見学している。交通安全教室には警察官を、防災訓練には消防署の職員を招いて行い、自分の身を守ることを伝えてもらうなど、地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会をさまざまに設けている。</p> <p>子どもが職員以外の人と交流できる機会がさまざまに設けられている</p> <p>クリスマス・餅つき・節分などの季節の行事は、市報や園が発行する子育て情報紙「らすく」にも情報を掲載して、地域の方に開放しており、参加者と子どもたちのふれ合いの機会となっている。また園を体験できる機会として、今年度は2歳児クラスの水遊びに地域の方も参加できるようにしている。その他、中学生のボランティアや養成校の実習生の受け入れも行うなど、園の行事に地域の人参加を呼びかけ、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会がさまざまに設けられている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもたちが落ち着いて活動できる環境を整えるためのさまざまな工夫がなされている	
内容①	3歳児までの保育室は2室に分けることができ、子どもの発達状況や天候などにより、柔軟に援助できるよう工夫している。同様に4・5歳児室はパーティションで仕切り、両クラスで相談しながら活用している。各室内ではままごとや絵本コーナー、積み木・ブロック・パズルなどの発達に応じた玩具を準備し、自分で選び、片づけができるよう環境を設定するほか、集中して取り組める空間づくりを心がけ、時差で少人数にする工夫もしている。また1歳児より各家庭に軍手人形を作ってもらい、情緒の安定を図りながら、ものを大切にすする気持ちを養っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との「共育」に向けて、さまざまな方法で保育実践や子どもの育ちを伝えている	
内容②	保護者への保育内容の説明や日々の子どもの姿の伝達は、連絡帳や送迎時の対話のほか、活動内容を玄関モニターで掲示するなど、さまざまに行われており、懇談会や保育参観も保育や子どもの成長を伝える機会となっている。さらに、保護者との共通認識や信頼関係を深めながら子どもの未来を支えてゆく「共育」の実践に向けて、保育士が把握している子どもたちの園での生活や、活動の中で見られた子どもの姿を写真に収め、テキストを付して保護者に伝える「ポートフォリオ」の取組を今年度始めており、今後のさらなる充実を目指している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	「みんなの会議」創設や短時間職員との連携など、組織のチームワーク向上に努めている	
内容③	昨年度途中からリーダー会議を増やし、保育提供や計画・記録作成など、日々の課題を各リーダーが現場の実情を踏まえてより主体的に検討する仕組みとし、今年度はこれを「みんなの会議」に改め、若手も交えたより多様かつ闊達な話し合いを促しており、現場の自発的な課題解決とともに、チームワーク向上にもつなげている。また短時間職員とも毎月の「朝夕職員会議」に加え、クラス単位でも保育や子どもの状況等に関する情報・意見交換の会議を設けるほか、早朝・夕方の保育など短時間職員向けの各種マニュアルも整備し、緊密な連携に努めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	4・5歳児の「にこにこレストラン」では、子どもたちの興味から発した対話的な学びと経験が楽しく展開されている
	内容	静かに食事する経験ができるようにと始めた取組である「にこにこレストラン」では、子どもたちが食券を購入する独自の工夫を採り入れることで、食券を買うお金はどうするかクラスで相談し、「ダンスを教える」「園をきれいにする」など、労働で対価を得るといった流れができた。回を追うごとに、レストランでアルバイトする5歳児が出てきたり、予約席を設けるなどの子どもたちからの提案も出始めている。楽しく食事をするだけでなく、誰かの役に立つという経験や自分たちのアイデアを体現する経験となるなど、広がりのある活動になっている。
2	タイトル	さまざまな行事では子どもたちが発達に応じて主体的に関われる工夫に努め、一人ひとりの豊かな体験の育みにつなげられている
	内容	季節の行事や伝承行事では子どもたちは準備段階から関わり、また運動会や発表会では0・1歳児は親子で登場し、発達段階に応じて無理なく参加できるよう配慮している。ピクニックや芋掘り・里山遊びなど、園周辺その他の自然環境を活かした行事も設け、5歳児は夏祭りの竹太鼓やデイキャンプ、系列園との交流など特別感のある行事で年長児としての喜びや充実感を味わい、その年長児の姿は年下児の憧れや意欲にもつながっている。行事にちなんで提供される特別メニューも、盛り付けや環境設定に趣向が凝らされ、園全体で特別な一日を演出している。
3	タイトル	子どもたちに日常の身の回りにある危険を視覚的に伝え、子どもが自ら安全・健康を意識できるようにしている
	内容	子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やケガを予防・防止できるように、その大切さを視覚的に伝えている。手洗い指導では映像資料を用いて楽しみながら洗い方を伝えるほか、洗い場にはイラストを掲示して視覚的に確認を促している。また職員チームがプールの前にトイレに行くことの大切さや、危険な行為から引き起こされるケガの様子をスライド資料にして子どもに伝えている。スライド資料は職員が場面場면을撮影して作った園オリジナルのものとなっており、実際の園内の場所やものを示すことで、子どもたちが想像できるように工夫されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者との「共育」に向けて始められた、保育実践と子どもの育ちを保護者に伝える「ポートフォリオ」のさらなる充実が期待が寄せられる
	内容	子ども・保護者・職員・地域で話し合っ子どもたちの未来を支えてゆく「共育」を大切に考えている。その一環として、保育実践を記録し、子どもの育ちを保護者と共有するための取組として、園での子どもたちの生活や遊びの姿をとらえた写真にコメントを付した「ポートフォリオ」を作成・掲示し、保護者にその様子を伝える取組が始められている。作成の頻度や採り上げる場面の選別、子どもの姿から成長を感じられるような写真の構図や撮り方、活動と発達の関連を伝えるコメント内容の充実など、活動の継続と振り返りによるさらなる質の向上が期待される。
2	タイトル	開園時に整えられた園の標準を示すマニュアルを、現状に応じて改正や再編纂に取り組み、実効性のあるものとするのが望まれる
	内容	園の業務の標準は、保育実践に関するもののほか、安全衛生管理や危機管理に関するものなど、園業務全般にわたり標準を示す仕組みが整っており、必要な時に活用できるようになっている。また園内の日々のさまざまな日常の業務に関する手順についても明らかにされており、有効な活用に向けて職員チームによる最適化を図る仕組みが整えられている。ただし開園時に整えた法人作成のマニュアル集は、法令やガイドラインの改定のほか、改善活動の成果を踏まえた見直しと再編纂が課題となっている。改正に向けた検討はすでに始まっており、期待が寄せられる。
3	タイトル	現場のさらなる負担軽減に向け、行事の内容や準備のあり方について、近年の保育の潮流も踏まえて検討を進めたいと考えている
	内容	保育書類の様式の見直しや昨年度からの複写式の連絡帳の導入、保護者負担の諸費用の自動引き落としシステムへの統合など、各種業務の効率化・省力化に注力している。現場の負担軽減は職員の働きやすさの向上に直結する重要な経営課題でもあり、用務担当の補助職員の導入など、さらなる施策も講じられている。子どもの主体性や実体験からの学びを重視する近年の保育の潮流を踏まえ、行事についても「見せる」ものから「生活とのつながり」を大切にしたものへと重心を移す必要性が認識されつつあり、準備作業の省力化と併せて検討を進める意向である。